

一般社団法人 日本原子力学会 標準委員会
第 55 回 原子燃料サイクル専門部会 議事録

1. 日時 2013 年 5 月 21 日 (火) 13:30 ~ 15:10
2. 場所 5 東洋海事ビル A+B 会議室
3. 出席者 (順不同 , 敬称略)
(出席委員) 河西副部会長 , 加藤幹事 , 天野 , 小畑 , 金木 , 木倉 , 坂下 , 中島 , 平井 , 深澤 , 藤田 , 丸岡 , 柳原 , 山本 (14 名)
(代理出席委員) 渡邊紀志代理 (東京工業大学 / 有富部会長) , 池田整代理 (原子力安全推進協会 / 川上委員) , 都筑康男代理 (原子力安全推進協会 / 仙波委員) , 船橋英之代理 (日本原子力研究開発機構 / 高橋委員) , 吉原恒一代理 (原子力安全推進協会 / 新堀委員) , 坂口彰彦代理 (中部電力 / 仲神委員) (6 名)
(欠席委員) 浦上 , 内山 , 大久保 , 重入 (4 名)
(説明者) [輸送容器分科会] 伊藤 , [LLW 処分安全評価分科会] 中居 , [臨界安全管理分科会] 板原 / 橋角 (4 名)
(オブザーバ) 安田 , 高瀬 , 関口 (3 名)
(事務局) 室岡 , 新井 , 漆原 (3 名)
4. 配付資料
 - FTC55-0 第 55 回原子燃料サイクル専門部会議事次第
 - FTC55-1 第 54 回原子燃料サイクル専門部会議事録 (案)
 - FTC55-2 人事について
 - FTC55-3-1 「浅地中トレンチ処分の安全評価手法 : 201X (案)」標準委員会書面投票結果
 - FTC55-3-2 「浅地中トレンチ処分の安全評価手法 : 201X (案)」標準委員会書面投票コメント対応表
 - FTC55-3-3 「浅地中トレンチ処分の安全評価手法 : 201X (案)」
 - FTC55-4-1 日本原子力学会標準の改定・廃止の要否の検討結果
(AESJ-SC-F001:2008 使用済燃料・混合酸化物新燃料・高レベル放射性廃棄物・低レベル放射性廃棄物輸送容器定期点検基準 : 2008)
 - FTC55-4-2 日本原子力学会標準の改定・廃止の要否の検討結果
(AESJ-SC-F013:2008 低レベル放射性廃棄物輸送容器の安全設計及び検査基準 : 2008)
 - FTC55-5-1 再処理施設の臨界安全管理における燃焼度クレジット適用手順 : 201X (案)
 - FTC55-5-2-1 「再処理施設の臨界安全管理における燃焼度クレジット適用手順」(案) の概要

- FTC55-5-2-2 「再処理施設の臨界安全管理における燃焼度クレジット適用手順」(案)の制定の背景・目的・スケジュールについて
- FTC55-5-2-3 六ヶ所再処理施設の燃焼度クレジット適用する設備及び海外での燃焼度クレジット適用状況について
- FTC55-5-3 「再処理施設の臨界安全管理における燃焼度クレジット適用手順」 本報告に対するコメント対応状況
- FTC54-8 分科会活動報告

参考資料

- FTC54-参考 1 原子燃料サイクル専門部会委員名簿
- FTC54-参考 2 標準委員会の活動状況

5. 議事内容

(1) 出席者の確認

開始時、24名の委員のうち、代理委員を含20名の出席があり、成立に必要な委員数(16名)を満足している旨が事務局から報告された。

(2) 前回議事録の確認(FTC55-1)

事務局から、前回議事録(案)について説明があり、前回議事録(案)は承認された。

(3) 人事について(専門部会人事,分科会)(FTC55-2)

事務局から、FTC54-2に基づき、専門部会、分科会の人事について以下の通り紹介を行った。

1) 専門部会

委員の再任

- 大久保 和俊(原子燃料工業)2013.6-2015.5
- 坂下 章(三菱重工業)2013.6-2015.5
- 重入 義治(国土交通省 海事局)2011.6-2013.5
- 高橋 邦明(日本原子力研究開発機構)2013.6-2015.5
- 新堀 雄一(東北大学)2013.6-2015.5
- 藤田 智成(電力中央研究所)2013.6-2015.5
- 山本 正史(原子力環境整備促進・資金管理センター)2013.6-2015.5

審議の結果、以上7名の再任が承認された。

2) 分科会

委員の退任

・輸送容器分科会

有富 正憲(東京工業大学)

大上 圭（原子力安全・保安院）
大西 忠聡（国土交通省）
丸岡 邦男（（独）原子力安全基盤機構）
滝谷 裕司（日本原燃（株））
広瀬 誠（原燃輸送（株））

委員の選任

・輸送容器分科会

菱田 政清（（独）原子力安全基盤機構）
田口 誠午（日本原燃（株））
高橋 純（原燃輸送（株））

以上6名の委員の退任および3名の分科会での選任が報告され承認された。

(4)【報告・審議】「浅地中トレンチ処分の安全評価手法：201X(案)」標準委員会 投票結果報告およびコメント対応について（FTC55-3-1, 3-2, 3-3）

事務局から資料 FTC55-3-1 に基づき、2013年4月8日から2013年5月8日まで実施した標準委員会投票結果報告について報告があった。続いて、LLW 処分安全評価分科会の山本委員、中居委員から資料 FTC55-3-2, 3-3 に基づき、コメント対応についての説明があった。主な質疑等は、以下のとおりである。

Q. コメント No.25 への対応について、「拝承。関連した箇所も含め、p.44 で次のように修正した。」と書いてあるが、移行モデルの前に「放射性核種」をつける修正は他の頁にもあるのでは。

p.43, p45 でも同じ修正をしている。

C. 対応の欄を、p.44 p.43～p.45 に修正するか、対応の内容に応じてコメント No. を分けた方がよい。

Q. 修正箇所について、コメント者の了解は得ているか。

標準委員会からのコメントであり、了解は標準委員会で得ることになる。

以上の審議のうえで、河西副部長よりエディトリアルな修正であるとの判断により、修正版を標準委員会にあげることにした。

(5)【報告・審議】輸送容器分科会策定標準2件改定要否について（FTC55-4-1, FTC55-4-2）

輸送容器分科会の伊藤副主査から資料 FTC55-4-1 に基づき、「使用済燃料・混合酸化物新燃料・高レベル放射性廃棄物・低レベル放射性廃棄物輸送容器定期点検基準：2008（AESJ-SC-F001:2008）」、FTC55-4-2 に基づき、「低レベル放射性廃棄物輸送容器の安全設計及び検査基準：2008（AESJ-SC-F013:2008）」の改定要否について分科会での検討結果の報告があった。主な質疑等は、以下のとおりである。

Q.「規制側から改訂要望連絡なし」とあるが、規制側委員が分科会委員を退任したので要望が得られないとのことか。

その通りである。分科会から積極的に問い合わせたということではない。

審議の結果、標準委員会審議要領に則り、5年毎の改定不要について書面投票に移行することとした。なお、書面投票は通常30日間だが、この件については、15日間に変更することとした。

(6)【本報告】「再処理施設の臨界安全管理における燃焼度クレジット適用手順：201X(案)」(FTC55-5-1, 5-2-1, 5-2-2, 5-2-3, 5-3)

臨界安全管理分科会の板原幹事から資料 FTC55-5-1, 5-2-1, 5-2-2, 5-2-3, 5-3に基づいて、「再処理施設の臨界安全管理における燃焼度クレジット適用手順：201X(案)」の本報告があった。主な質疑等は、以下のとおりである。

C. 解説図2のタイトル“燃焼度クレジットを想定する…”は、解説図1のタイトル“新燃料を想定する…”と対比させて“使用済燃料を想定する…”とするか、又は、“燃焼度クレジットを適用する…”としてはどうか。

拝承。“燃焼度クレジットを適用する…”に変更する。

C. 標準のタイトルは“…適用手順”としているので、本体図1、解説図1及び解説図2のタイトルも、“…手順”と統一してはどうか。

拝承。本体図1、解説図1及び解説図2のタイトルは、“…手順”で統一する。

Q. 東海再処理施設においても、入量計量槽にて、臨界安全管理のために同位体組成を分析確認しているのか。東海再処理施設で実施していないなら、本標準の手法は、再処理一般とは言えないのではないか。

東海再処理施設は、燃焼度クレジットを適用していない。そのため、六ヶ所再処理施設と異なり、燃焼度クレジットを適用しない下流工程の臨界安全管理の観点から、入量計量槽でPu-240を分析確認していない。しかし、他の再処理施設が今後できるなら、六ヶ所再処理施設と同様に、燃焼度クレジットによる手法を採ると思われる。

C. 解説の第3章のタイトルは「審議中に特に問題となった事項」としているが、このような構成・タイトルで事項を取り上げるものなのか。

解説の第3章では、標準原案の審議において問題とされたことを参考記載している。また、“標準の手引き2010”において解説の構成例として、“審議中に問題となった事項”が挙げられている。

C. 解説の参考文献(13)のタイトルは、スペルミスと思われる(Burup Burnup)。

拝承。スペルを修正する。

審議の結果、今回のコメントを反映させた修正案で専門部会書面投票に移行することが決議された。

(7) 原子燃料サイクル専門部会 分科会活動状況 (FTC55-6)

事務局から資料 FTC55-6 に基づいて各分科会の活動状況が報告された。

6 . その他

- ・次回第 56 回原子燃料サイクル専門部会は 9 月 10 日 (火) ~ 9 月 13 日 (金) 間で調整となった。

以上